

平成22年第1回定例会

今期定例会は、去る2月24日から3月24日までの29日間の会期で開催しました。

財政状況が依然として厳しい中、地域経済の活性化に向け、行政の役割や具体的対策などが注視された議会でした。

各常任委員会へ付託された主な議案としては

- ① 北海道市町村総合事務組合規約の一部変更
 - ② 登別市職員の給与に関する条例等の一部改正
 - ③ 登別市職員の退職手当の支給に関する条例の一部改正
 - ④ 登別市功労者表彰条例の一部改正
 - ⑤ 登別市火災予防条例の一部改正
 - ⑥ 登別市税条例の一部改正
 - ⑦ 登別市重度心身障害者医療費助成条例の一部改正
 - ⑧ 登別市手数料条例の一部改正
- などについて審査を行い、全会一致で可決しました。
- また、意見書については、「介護医療病床廃止及び医療療養病床削減反対」「政治資金規正法の制裁強化を求める」など、5件を可決しました。

◆補正予算審査◆

平成21年度登別市一般会計補正予算および各特別会計補正予算については、特別委員会を設置して、2月26日と3月10日に審査を行いました。

主な質疑としては

- ① 鉄南ふれあいセンターのク口入張替え箇所について
- ② 経済対策としての起業化支援事業の考え方について
- ③ 消防団用車両の寄贈に伴う車庫の新築について
- ④ 新図書館建設基金積立金の積立額および内訳について
- ⑤ 道民税取扱委託金請求もれ金額の年度別内訳について
- ⑥ 地域介護・福祉空間整備等施設整備事業の展開時期について

などに対して、それぞれ答弁があり、全会一致で可決しました。



市へ質問

～明日へのまちづくり～



総合計画について

天神林 美彦

〔質〕総合計画第2期基本計画の中間点にあたり、現時点における「前半に対する実績評価や受け止め」および「後半への課題等」について聞きたい。

〔答〕実施計画の3力年検証を行った結果「子育て支援、高齢者や障がい者福祉、環境保全、観光産業振興」などを中心に実施率は、89・5%とおおむね達成したものと認識している。

後半における課題は、財政状況から実施できなかった「市営住宅建て替え、市道の改良事業」などの着手時期となる。



木村 俊子

子宮頸がんワクチン公費助成とアイヌ文化振興

子宮頸がんが若い女性に急増している。日本で年間約1万5千人が発症し、約3千5百人が亡くなると推計されている。昨年、厚生労働省がワクチンを承認し、12月に発売が開始された。しかし、3回の接種の費用が5万円程と高額なため、だれもがワクチンを接種できるよう、公費助成を強く求めた。

また、広く市民にアイヌ文化学習の機会を提供することで、理解が深まることにより、登別市の観光振興にもつながるのではないかと期待した。



辻 弘之

らっぴひかりまちづくり

市の人口動態、労働人口の減少に対応した具体的経済政策を質問。中小企業融資制度の条件緩和などが実施されることになりました。さらに、危機的経営状態である職業訓練センターのあり方についても、労働者・技能者育成の観点から機能強化を提言。長期型委託訓練の実施などが協議されることになりました。

また、庁内各部署内に分散・内蔵する各種計画や図、調査記録などの政策情報を一元的に整理し、市民に提示すべきと提案しています。